人間としての自覚のもとを果たすためのパロディーという、実際にパロディーに近い、いわば「真面目で滑稽なパロディー」を数多く著した作家に「マス・マン」がいる。なかでも「のルールの告白」は他のパロディーと異なり、マンと当世代の実在の哲学者の回想録に応え、特に、マンの作品に関しては異例の一例で実に書記されている点に、実際のパロディーの特質がある。事実、マンは「テルサイの告白」のために、実際のルーメノの哲学者を元に、マロワの生涯から内容的にいくつか心情吐露をそのまま小説体にとつする自伝的要素の多い、いわゆる私小説「サイモン・サイモン」ではもちろんない。つまり、一人称と文章の体裁で書かれた、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装の才能」、上品なフランス風のマナー、貴族という仮面を被った上流社会を手玉にする手口等々。そして、形式面で特にマンを軸にした自伝風のテクストを用いている。例えば、その女性風、天性の「仮装的∴
そして、少年時代のクルが父親同伴で初めて劇場を訪れた時に、舞台の華麗な男優たち、楽屋で会った吹出物だけの男が同一人であると知って愕然とする。「公演・舞台・詩歌・芸術家の関係が見え隠れしている。この様に、『クルの自白』は許され、まるで、『道化者』のパロディーであるが、もはやはスペインの悪漢小説、『水兵の告白』のパロディーであるとは容易に想像できるところである。

一方、『クルの自白』以外のパロディー、例えば、「セーキと兄弟たち」などは、二十世紀にはもう既に古くなってしまってしまった感のある素材に、『終止符をつける人間』としての自覚をもって、アクトゥール的な問題意識を導入して現代化計画を行う。科学性知識、心理分析学的手法も駆使し、複雑なパロディーを創出している。『ライオンのロッダム』のなかで、老ゲーテの年齢を借りて表現されたマン自身のパロディーに共に、微笑ながら別れを告げるところである。

単純なパロディー、例えば、「エンカーダイ」というもの、文化、伝統に対して保守的であることも、今後は次第に魂の救済である様に思ってまいりました。